

関心を集める ASEAN のエネルギー問題

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
常務理事 首席研究員
小山 堅

5 月 7 日、タイ・バンコクにおいて、国際エネルギー機関 (IEA)、東アジア・アセアン経済研究センター (ERIA)、タイ国・エネルギー省の共催による、「ASEAN Energy Outlook」に関するワークショップが開催された。このワークショップは、IEA による今年の「世界エネルギー展望 (World Energy Outlook: WEO 2013)」の重要トピックの一つとして ASEAN が取り上げられることに対応して開催されたものである。会議には、IEA 関係者、専門家等の他、地元のタイ政府・産業関係者を中心に多数の ASEAN 諸国からの参加者があり、出席者が 180 名近い大規模ワークショップとなった。また、ワークショップ開催翌日には、タイ・エネルギー省及び同国エネルギー産業関係者等と個別に意見交換する機会も得た。本稿では、ワークショップ参加や意見交換を通して、ASEAN のエネルギー問題について特に印象に残った点をまとめる。

第 1 に、ASEAN のエネルギー需要の大幅拡大が国際エネルギー市場に重要な意味を持つことを改めて認識する機会となった。世界のエネルギー需要の増加という点では、中国、インド、そして中東などに焦点が当てられることが多い。しかし、実は ASEAN においても、活発な経済成長、人口増加、都市化、中間所得層の増加、補助金制度等のエネルギー低価格制度の存在等の社会・経済要員を背景に着実なエネルギー需要増加が予想されている。例えば、弊所「アジア/世界エネルギーアウトック 2012」によれば、基準となるレファレンスケースの見通しにおいて、ASEAN の一次エネルギー需要は、2010 年から 2035 年の間に 6.85 億石油換算トン (TOE) 増加する。この増分は、中国 (17.67 億 TOE)、インド (8.52 億 TOE) の増分に続くものであり、まさに、世界のエネルギー需要増加を牽引する重要な役割を果すことになる。

上記の ASEAN のエネルギー需要増分の内訳を見ると、石炭が 2.35 億 TOE、天然ガスが 1.88 億 TOE、石油が 1.82 億 TOE と化石燃料消費増加が著しい。後述する輸入依存上昇の問題と相俟って、ASEAN にとっては増大する化石エネルギー需要増加はエネルギー安定供給上の重要課題となる。ワークショップにおいては、ASEAN のエネルギー需要増大についての様々な見通し、需要増大を抑制するための省エネルギー推進の重要性に関する多くの議論があった。特に省エネルギーに対する期待の高さは、ワークショップにおいても、意見交換においても、切実に実感することになったが、同時にその遂行・実施には、補助金制度の存在を始め、様々な課題があることも多くの関係者が認識・指摘するところである。

第 2 に、豊富な資源を持ち、エネルギー輸出国が多く存在する ASEAN が、今後は地域全体として急速に輸入依存を高めていく方向にあることが注目される。インドネシア、マ

レーシア、ブルネイ、ベトナムなど豊富なエネルギー（化石燃料）資源に恵まれ、石油・ガス（LNG）、石炭などを域外に輸出する国が存在しつつ、急速な内需の高まりに全体としてエネルギー生産拡大が追いついていかない構造が顕在化しつつある。上記の弊所見通しにおいては、ASEAN の石油需給バランスは、1990 年時点では 3100 万トンの純輸出であったが、既に 2010 年には 7100 万トンの純輸入地域に転換している。今後も純輸入は大幅に増加し、2035 年には純輸入量は 2.7 億トン（輸入依存度 71%）となる。また、天然ガスについても、2010 年には 610 億立米の純輸出であったものが、2035 年には 310 億立米の純輸入へと、輸出入ポジションが大きく変化する姿となっている。また、LNG 輸入についてみると、弊所見通しでは、ASEAN の輸入量は 2035 年に 4000 万トンと推計され、インドに並ぶ重要な輸入元となる。

この状況下、エネルギー安定供給確保は ASEAN にとって重要課題となることは必至であろう。非在来型も含む国際化石燃料資源の開発、供給源・輸入源の分散化、域外資源国との関係強化、備蓄整備など緊急時対応能力強化、等のエネルギー安全保障政策整備が ASEAN にとって急務となっていこう。また、ASEAN の特徴としては、ASEAN 域内の協力の一層の推進・深化も重要な課題となる。域内における広域エネルギーインフラの整備などもこの観点から重視されていく可能性がある。また、エネルギー安定供給確保の面では、単に量の安定確保だけでなく、価格面での安定確保も重要となる。その点では、ワークショップにおいて、また意見交換において、「LNG 価格のアジアプレミアム問題」やその対応策としての北米 LNG 輸入の可能性と影響、アジアにおけるガス取引ハブ形成の可能性、などについて、高い関心が示されたことも興味深かった。

第 3 に、エネルギー源多様化及び化石燃料依存度の低減の観点等から、再生可能エネルギー及び原子力発電に対して、ASEAN 全体として大きな関心が寄せられていることを実感した点がある。ASEAN 諸国は、それぞれの国の特徴・資源賦存状況を反映して、バイオマス、太陽光、風力、地熱、水力など様々な再生可能エネルギー促進に真剣に取り組んでいる。国産エネルギーとして、また一部では分散型エネルギーとして、グリッドから離れた地域等へのエネルギー・電力供給源として、期待が寄せられている面もある。様々な政策支援の下で再生可能エネルギー導入が進められつつある一方で、世界の再生可能エネルギー市場での新情勢やとりわけ欧州（ドイツ、スペイン等）における再生可能エネルギー導入に伴う諸課題への関心の高さも実感することができた。原子力については、ベトナムでの導入が決定し、取組みが実際に進められつつあると同時に、タイ、インドネシア、マレーシア等でも長期的な戦略的オプションとして大きな関心がもたれている。ASEAN 諸国のエネルギーポートフォリオの将来や、上述した輸入依存問題等を考える上でも、これらの非化石エネルギーの導入を巡る状況は大いに注目していく必要があるだろう。

わが国にとって、ASEAN 地域は、エネルギーの観点のみならず、国際関係全般、経済協力、ビジネス等の関係で、従来から密接な関係を有してきた。その ASEAN の国際市場全体における重要性が高まり、かつエネルギー問題を巡る様々な課題が浮上する中で、ASEAN との関係深化は、わが国にとって戦略的な重要性をさらに高めることになる。

以上